

意宇郡

伯太川。源は仁多と意宇と二郡の堺なる葛野山より出て、流れて母里・楯縫・安来の三郷を経て入海に入る。年魚・伊久比あり。

能義郡伯太町から安来市を経て中海にそく伯太川を指す。古代には八ダ川、中世には八夕川と呼ばれた。春上流の伯太町母里地区はチユリツプ祭りでにぎわう。下流にはしじみが生息する。



伯太川 (伯太町井尻付近)

山國川。源は郡家の東南三十八里なる枯見山より出て、北に流れて伯太川に入る。

安来市上吉田町から市内を北に流れる吉田川を指す。現在は中海にそくが、当時は安来市折坂町あたりで伯太川に合流していた。伯太川同様、下流ではしじみが生息する。



吉田川 (安来市上吉田町別所付近)

来待川。源は郡家の正西二十八里なる和奈佐山より出て、西に流れて山田村に至り、更に折れて北に流れて入海に入る。年魚あり。

八束郡六道町の佐々布川を指す。そく来待川を指す。流域には、来待石灯籠の産地や来待温泉がある。



来待川河口から六道湖方面を見る

六道川。源は郡家の正西三十八里なる幡屋山より出て、北に流れて入海に入る。魚なし。

八束郡六道町の佐々布川を指す。JR木次線、国道五四号線にほぼ沿って北に流れ、六道湖にそく。そのほか「津間抜池」「真名猪池」と記載があるが、その場所は明確でない。



佐々布川 (六道町佐々布付近)

飯梨川。源は三つあり。一水の源は仁多・大原・意宇三郡の堺なる田原より出て、一水の源は枯見より出て、一水の源は仁多郡の玉嶺山より出て三つの水合ひ、北に流れて入海に入る。年魚・伊具比あり。

飯梨川を指す。中流の広瀬町周辺では、富田川と「三つの川」として上流で合流する山佐川・比田川・宇波川を指す。下流では砂の間をぬつように水が流れていることが多い。これは、近世の砂鉄採取による「鉄六流」のため。

戦国大名・尼子氏の本拠地である月山富田城は、この川のほとりにあった。江戸時代の大洪水で沈んだ城下町の町並みは、今も川底に眠っている。今は河川改修が進んだが、戦後までは洪水が多かった。



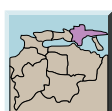
飯梨川 (広瀬町新宮橋付近)

筑陽川。源は郡家の正東二十里一百歩なる秋山より出て、北に流れて入海に入る。年魚あり。

八束郡東出雲町意東を流れる意東川を指す。秋山は八束郡八雲村の星上山で、「ここから流れて中海にそく」



意東川 (東出雲町上意東付近)



嶋根郡

水草河。源二つあり。一水の源は、郡家の東北三里一百八十歩なる毛志山より出て、一水の源は、郡家の西北六里一百六十歩なる同じ毛志山より出づ。二つの水合ひ、南に流れて入海に入る。鮒あり。

現在の朝酌川を指す。澄水山に源があり、当時は「入海」(現在の六道湖)にそいでいた。現在は大橋川にそく。川幅が狭く曲がりくねっているため、しばしば洪水を起こした。河川改修は現在も進行中で、それに伴ってタネチヨウ遺跡、西川津遺跡・原の前遺跡の調査が行われ、松江市の古代の歴史が明らかになりつつある。



かつての面影が残る、川津小学校北方付近の朝酌川

長見川。源は郡家の東北九里一百八十歩なる大倉山より出て、東に流る。

松江市長海町の長海川を指す。枕木山の東のふもとから流れ出し、中海にそく。近くに永海神社がある。

意宇川。源は郡家の正南一十八里なる熊野山より出て北に流れ、東に折れ、流れて入海に入る。年魚・伊具比あり。

八束郡八雲村、松江市、東出雲町を流れ、中海にそく意宇川を指す。熊野山は、八雲村と能義郡広瀬町の境の天狗山を指す。上流では熊野川、下流では出雲郷川とも言う。意宇川は当時の国庁の最も近くを



意宇川 (東出雲町春日付近)

日吉切通し。近くには、親水公園もある。



長海川 (松江市長海町)

大鳥川。源は郡家の東北一十二里一百一十歩なる曇野山より出て南に流れ、二つの水合ひ、東に流れて入海に入る。

長見川(長海川)の支流を指す。曇野山は八束郡美保関町の忠山で、これを源に南流し、中海にそいでいた。このような小川をわざわざ記載したのは、当時の隠岐航路の起点である千酌駅への道筋であったためであろう(加藤義成説)



大鳥川 (松江市長海町)かつては長海川に合流していた。向こうには中海・大根島が見える。

加賀川。源は郡家の正北二十四里一百六十歩なる小倉山より出て、北に流れて大海に入る。

加賀漁港にそく今の澄水川を指すとする説と、大戸漁港にそく現在の森田川とする説がある。小倉山は今の大平山。

流れる川で、四季折々の景色は大和から赴任してきた貴族の心をとらえ、万葉集にも歌われた。八雲村日吉に切通しを作る近世の難工事によって、流路は定まり、治水・耕地拡大に貢献した。



八束郡玉湯町を流れる玉湯川を指す。玉の原料となるメノウや碧玉を産出する花仙山の西を流れ、流域には出雲玉作跡、史跡公園、資料館などがある。また、玉造温泉は島根を代表する観光地で四季を通し観光客でにぎわう。



玉湯川 (玉湯町玉造付近)

野代川。源は郡家の西南一十八里なる須我山より出て、北に流れて入海に入る。

現在の忌部川(乃白川)を指す。須我山は、大原郡大東町と八束郡八雲村の境の八雲山で、「ここから北に流れ六道湖にそく。流域には千本ダム、大谷ダムがあり、松江の水がめとなつて



忌部川 (西忌部町下忌部付近)



講武川 (八束郡鹿島町名分付近)

現在の松江市黒田町・春日町・法吉町あたりに広がっていた、直径九〇メートル、深さ一メートルあまりの池と考えらる。水鳥が群がり、コイヤフナ、食用になる藻が採れたといふ。このあたりは池だったせいで、今でも地盤沈下地帯。



真山の山頂から黒田町方面を見る